郵便事業は赤字のまま株式上場！ 西室泰三日本郵政の構造問題

財界

ZAIKAI
a Japanese business biweekly

駅直結が売り物！
野村不動産HD・沓掛英二の
「中核都市コンパクトシティ化」戦略

平成27年9月22日発行（隔週火曜日）平成27年9月8日発売 昭和28年10月3日第三種郵便物認可 第63巻第19号

2015 9/22

◎インタビュー
日本創成会議座長
（元総務相）
増田 寛也
ジェイティービー会長
田川 博己

日本を代表する総合インターネットグループへ。グループ86社のうち8社が上場

GMOインターネット 熊谷正寿の経営哲学
「No.1のサービスを提供し続けていく」

水越主幹
村田 博文

表紙の人
GMOインターネット
会長兼社長
熊谷 正寿
撮影 齊田 勤

世界に先駆けクラウド総合水管理システム『やくも水神』で、悠久の平和を提唱

ハイコンセプトな事業展開が注目……小松電機産業

1985年発売、国内外に15万台以上設置されている『シートシャッター門番』。92年発売、現在では46都道府県380自治体・8400施設に導入されているクラウドの先駆け、総合水管理システム『やくも水神』。この2大ヒット製品を開発したのが、小松電機産業㈱（本社・松江市）だ。さらに、94年シンク&ドウタンク人間自然科学研究所（本部・同市）を設立。心の進化を促す社会インフラ事業を通して世界平和のプラットホーム創りを提唱、これを経営の根幹に据える異色の起業家・小松昭夫、代表取締役社長兼研究所理事長に、その経営と開発コンセプトを聞いた。

東日本大震災で『やくも水神』が再評価

高度成長期に敷設した「上下水道設備の老朽化」、「財政難」や「職員の削減」、が緊急課題になっており、合併などで広域化した自治体にとって更新や再設計が急務となっている。

『やくも水神』は、上下水道施設を始め、農工業用水、雨水、消雪、ゲート、温泉水などあらゆる水関連施設の管理を世界および全国規模でタブレットやスマホ、PCから遠隔制御管理できるシステムである。

小松昭夫社長

2000年、『やくも水神』はそれまでのNTT専用線による監視から、ドコモの携帯電話パケット通信網に転向し、今でいうクラウドコンピューティングによる世界初の総合水管理システムを出雲から全国展開を始めた。

03年に、当時ほぼ無名の松江発のプログラミング言語「Ruby」で、システムを刷新。また、データセンターを松江と東京の東西2拠点に設け、高い安全性とセキュリティーを実現させた。

2010年、iPadの日本発売にあわせ、いち早くタブレットPC、スマホで管理できるようシステムを再構築、ジャーナリスト大河原克行氏による報道と池上彰氏が司会をした野村総研「未来創発フォーラム」（10年7月、出席者名古屋1700人、東京2700人）で「次なる社会インフラ」として社会システムコンサルティング部長の神尾文彦氏が発表した。

さらに採用自治体の長崎市と兵庫県多可町が国交省のICT成功モデルと紹介され、よく知られるようになり普及が加速化した。

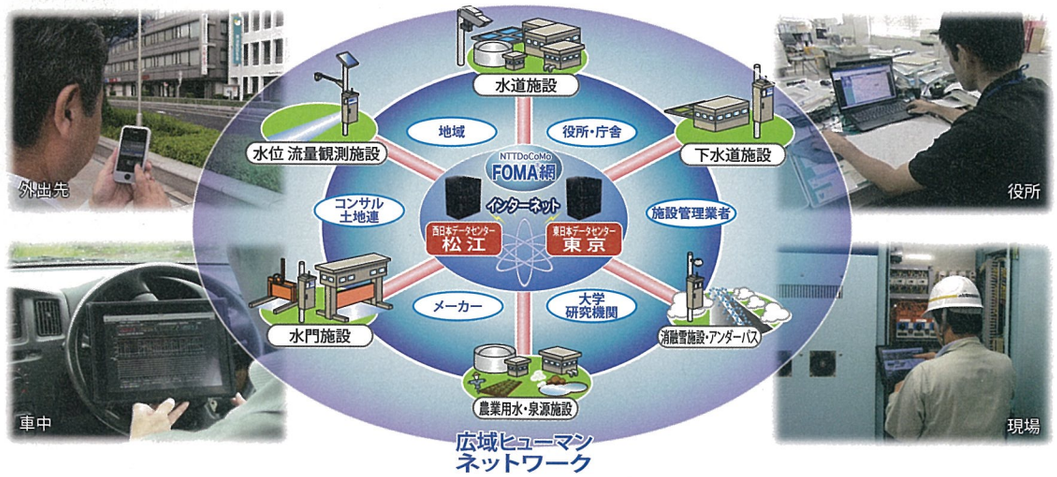
01年からマンホールポンプの制御に『やくも水神』を導入した東京都町田市は、庁舎内のパソコンで遠隔制御し、大震災後の計画停電前に流入量の多い施設を中心にマンホールの汚水をあらかじめ圧送し迅速な対応ができた。津波で死者もでた水門管理の教訓から、このシステムを使ったゲートの遠隔開閉管理も始まっている。

また、ゲリラ豪雨などによる雨水の急激な増加は都市部にとって、地下街への流入など深刻な問題になっている。東京都武蔵野市は、昨年から『やくも水神』による雨水管理にシステムを導入し、管理者の利便性の向上はもちろんのこと、市民がいつでも〝雨水の今〟を見ることができるように、ホームページで管理状況を公開した。

今年1月、1市6町が合併した鹿児島県霧島市は、大手電機メーカーが構築していた既存のシステムを撤去し大幅なコストダウンと広域的な遠隔制御が可能な『やくも水神』の導入を決定した。

総合水管理について小松氏は、「北陸では道路の雪をとかす消雪施設を遠隔管理に活用。また、東日本大震災では津波被害後にいち早く管理や制御が復旧するなど、今までのシステムでは考えられなかった機能を発揮し関係者に感動を与えています。先進的な全国の地方自治体職員の皆様と共創した結果生まれた総合水管理システム『やくも水神』は、官民連携のモデルであり、関係者の理解が得られ本格的に導入が進めば、劇的に全国、そして世界を変える『ビッグ地方創生モデル事業』になります。関心がある方々との新たな出会いを期待しています」と語る。

『happy gate門番』



クラウド総合水管理システム『やくも水神』（概念図）

地球温暖化防止の『門番』ヒット

東証1部上場会社だった、農業機械メーカー佐藤造機（現・三菱農機）が、戦後の三大倒産といわれ会社更生法適用となった。同社の中央研究所の技術者だった小松氏は、73年に郷里の八雲村（現・松江市八雲町）で、ポンプの修理業で創業。81年に同社を設立し4年後に、人や物が近づくとセンサーが感知し、シートが瞬時に上がり、通過すると閉まるビニール製の『シートシャッター門番』を開発した。製造現場などで冷暖房や防風、防塵、防虫などの効果が劇的に高まることから爆発的なヒットとなり、91年に中小企業研究センター賞、第2回ニュービジネス大賞を受賞。92年の日韓首脳会談での要請を受け、小松社長は韓国企業に製造技術の無償供与を決断し、11年に現地法人「KOMATSU KOREA」（ソウル市）を設立した。12年には新開発の『happy gate門番システム』が「ものづくり日本大賞優秀賞」を受賞。

「空間価値創造」のキャッチフレーズの通り、「外気と触れる面は防虫、室内は誘虫」の画期的な機能がある、3社共同開発の『マジックオプトロン門番』、壁面がなくても施工でき、パーテションなどへの応用が自在な『自立型門番』、静粛性が飛躍的に向上、新市場創造につながるといわれる『門番チューブ』と、その用途は、さらなる広がりを見せている。

IoTの「第4次産業革命」に挑戦

本質的な社会問題が生まれた経緯と背景を研究、正面から受け止め、商材を開発し順序を踏み仕掛けて待ち、マーケットを創造する。開発に1のパワーが必要だとすれば、その量産化には10倍、マーケットを新しく生み出すには100倍のパワーが必要だと語る。こうした開発と事業の歴史は同社のホームページに動画も含めて詳しく掲載されている。

悠久の縁結びの国出雲が生んだ稀代の起業家・小松社長は、2つの世界的な製品開発と四半世紀に及ぶ研究所の実績を背景に「門番で地球温暖化を防止し、『水を制する者は天下を制す』ではないが、やくも水神で水の情報をクラウド制御することによって、世界平和のプラットホームが築ける。これからは大学や大企業、各種団体とコラボレーションし、持続的な社会インフラ事業となる『ジャパンモデル』を確立したい。『8月15日を終戦記念日と定めた日本は、人類の戦争を終わらせる使命を持った国家』として戦後70年を契機に定義すれば、日本人のアイデンティティを確立することができ、安全保障政策につながり、人類進化の役割を果たし得る」と熱く語る。

IoT、「第4次産業革命」に挑戦していく究極のハイコンセプトな事業展開が注目される。

■ 本社／松江市乃木福富町735-188　TEL（0852）32-3636　http://www.komatsuelec.co.jp/

PR